

## 教育研究の広場



## 「亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構」がスタート

## —キックオフセミナーを開催—

平成10年10月、大学審議会は「21世紀の大学像と今後の改革方策について」と題する答申のなかで、「-競争的環境の中で個性が輝く大学-」を謳った。本学も、沖縄の地域特性に根差した個性的で、魅力的な研究課題を戦略的に推進し、沖縄に置かれた大学としての教育研究の個性化と高度化を図ることを「中期目標・中期計画」の柱に据えている。そのための方策のひとつとして、平成17年2月、学部・専門領域の枠を超えた「亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構 (Transdisciplinary Research Organization for Subtropics and Island Studies)」が設置された。

当該「研究推進機構」は、その名称が示すように沖縄の地域特性を代表する亜熱帯環境、そして島嶼・海洋環境に由来する研究課題を推進することを目的としている。加えて、その特徴のひとつは学内の関連する基盤的研究を有機的に連携させ、「超域」的なグループ研究（タスク研究）として推進することにある。研究推進機構内には「海洋科学」「亜熱帯科学」さらに「島嶼社会科学」の3研究部門を組織し、文理融合型の超域研究が推進できる体制を築くとともに、機構長には研究・国際交流担当理事（現在研究・社会連携・国際交流担当理事）が就任した。

本年3月、学内に対して「研究推進機構」への参加募集を行ったところ、合計36件の研究テーマの応募があり、延人数にして240名余りの教員が各タスク課題への参加希望を寄せた。応募のあった36研究テーマについて、研究課題の調整を行い、過去の実績や本学の将来展望などを踏まえて、以下の6研究課題に統合・絞込みを行ない、研究がスタートした。

研究部門名	タスクテーマ
海洋科学 研究部門	サンゴ礁域を軸とした亜熱帯島嶼沿岸環境における海洋生産基盤研究
	持続可能な島嶼社会形成のためのマングローブ/サンゴ礁生態系の保全と利用に関する研究
亜熱帯科学 研究部門	亜熱帯島嶼環境における共生型農林畜産業の開発モデル構築に関する研究
	亜熱帯生物資源を活かした健康長寿と持続可能な健康バイオ資源開発に関する研究
島嶼社会科学 研究部門	ゼロエミッション・アイランド形成のための物質循環と環境影響評価に関する研究
	亜熱帯島嶼観光資源の有効活用とエコツアーモデルの研究

本年10月5日、研究機構の立ち上げと研究内容を紹介するためのキックオフセミナーを学内の研究者交流施設・50周年記念館において開催し、60名余りの教職員、学生が参加した（写真）。セミナーは森田孟進学長の挨拶に始まり、特別講師として新潟大学板東武彦副学長による「新潟大学の研究戦略-超域研究機構とコアステーション-」と題する講演に続いて、研究推進戦略室長より本学の研究推進戦略と本研究推進機構について紹介を行った。

森田学長は、全国の旧国立大学が国立大学法人として走り始めたなかで、本学の個性化に向けた研究戦略とそのため超域研究推進機構の立ち上げが社会的に大きな評価を受けていることを紹介し、当該研究推進機構が新たに新設された観光科学科の発展や将来設置を検討している海洋生産学部などの特色ある組織改革に向けた研究の基盤づくりになることへの期待を述べた。また、既に同様の「超域研究機構」を立ち上げた新潟大



キックオフセミナーで挨拶をする森田学長

学長の板東副学長からは、同大学における組織改編と研究推進戦略について示唆に富む内容の講演があった。新潟大学では原則として全教員を「教育研究院」に所属させ、教育研究院は従来の学部・学科の枠組みや確立された分野にとらわれない自由な発想による研究の場として位置づけている。その一方、既存の学部・学科は第一義的に伝統的な分野の教育のみを行う場と位置づけ、教育組織と研究組織を分離することで、研究者の集団から教育組織への柔軟で恒常的な人員移動を可能としている。教員に対しては、それぞれの役割に応じて教育評価と研究評価を別個の基準で行うことにしているという。このような組織改革を行うなかで、新潟大学では学内の研究者をリーダーとする自主的研究グループによるコアステーション制度を採用し、従来の枠組みにとらわれない自由で自主的な発想による研究体制（各種研究センター）の構築をはかるとともに、新しい学術の創成に向けた超域研究機構を立ち上げている。新潟大学は、大学としての規模が本学とそれほど大差がなく、その種々の施策は本学にとっても現実的な参考になると思われた。

最後に各タスク研究グループのリーダー6名によるプレゼンテーションが行われ、環境と共生可能な農林畜産業のあり方、亜熱帯資源を利用した健康バイオの研究、マングローブ・サンゴ礁域の保全と有効利用、亜熱帯島嶼沿岸域における海洋生産基盤の確立に向けた研究、亜熱帯・島嶼環境でのエコツーリズムのあり方、ゼロエミッション・アイランドを目指す研究など、亜熱帯・島嶼の「環境保全」、「内発的発展」、「安心と安全の確保」、「ゆとりと満足の充実」などの共通するキーワードのもとで総合的・超域的な研究を推進する計画が紹介された。

本学では、既に全国的にみて数少ない観光科学科が新設され、新たな海洋生産学部の設置構想なども検討されつつある。また、研究プロジェクトとしてはサンゴ礁・亜熱帯域での生物多様性に関する「21世紀COEプログラム」、さらには特別教育研究経費による「新興・再興感染症のワクチン開発研究プログラム」などの大型の研究プロジェクトも採択され、活発に推進されつつある。当該研究推進機構は、これらの個性化プログラムと密接に連携しつつ、全学的枠組みで個性的な研究を発展させる役割を担うものである。また、その成果を組織的に社会に発信し、本学のイメージの定着を図るとともに、将来における魅力ある組織再編に結びつくことが期待される。そのためには、既存の学部・学科等の枠組みにとらわれず、大きく流動性を担保したグループ研究組織である利点を最大限利用して、多くの学内研究者が個々の基盤的研究を発展させる場として大いに活用して行くことが重要である。



新潟大学板東副学長による講演の様子

学術国際部研究協力課